

盛岡市議会・紫波町議会懇談会概要書

1 日 時 平成14年8月1日(木)
午後3時30分から午後5時6分(会議時間1時間36分)

2 場 所 ラ・フランス温泉館

3 出席者

(1) 盛岡市議会

議 長	山 本 武 司 君	広域行政問題懇話会会長	高 橋 金 兵 衛 君
	広域行政問題懇話会副会長	北 田 正 夫 君	委 員
委 員	菅 野 正 君	委 員	堀 合 正 民 君
委 員	小 枝 指 博 君	委 員	佐々木 勲 君
委 員	村 田 芳 三 君	委 員	伊 藤 俊 光 君
委 員	刈 屋 秀 俊 君	委 員	本 宮 秀 孝 君
委 員	青 木 道 雄 君	委 員	庄 子 春 治 君
事務局長	立 花 勇 司 君	委 員	阿 部 和 平 君

(2) 紫波町議会

議 長	工 藤 眞 巨 君	副 議 長	大 沼 秀 一 君
議 員	田 森 悠 太 郎 君	議 員	熊 谷 哲 司 君
議 員	本 野 喜 信 君	議 員	阿 部 王 洋 君
議 員	佐々木 雅 博 君	議 員	佐々木 教 明 君
議 員	鷹 觜 守 司 君	議 員	鈴 木 勝 見 君
議 員	新 里 哲 之 君	議 員	須 川 敏 昭 君
議 員	藤 原 恵 子 君		
事務局長	佐々木 忠 君		

4 事務局職員

事務局次長	阿 部 光 雄 君	議事課長	阿 部 信 一 君
議事課調査係長	中 村 俊 行 君	庶務課書記	佐羽内 大 郎 君
議事課書記	加 藤 俊 男 君	議事課書記	藤 澤 智 子 君

5 盛岡市当局

企画部長	藤 井 禧 勝 君	産業部長	小 野 功 君
建設部長	蜂 谷 憲 一 君	都市整備部長	船 越 義 樹 君
水道部長	羽 澤 勝 雄 君	教育部長	川 股 精 裕 君

6 懇談会の概要

初めに立花盛岡市議会事務局長の進行によって懇談会を開会し、山本議長及び工藤議長からのあいさつの後、懇談会出席者の自己紹介が行われた。

次に、立花事務局長から懇談に入るに当たり、高橋会長が進行を務める旨が諮られ、了承された。

この後、高橋会長から広域行政問題懇話会における今までの協議経過について、次のとおり説明がなされた。

- ・ 一昨年の12月定例会最終日に懇話会設立。
- ・ 半年間で10回ほどの勉強会を開催。
- ・ 昨年度、6市町村議会の正副議長の会議を開催。
- ・ 隣接町村とはこれまで、6市町村の正副議長による懇談会、滝沢村議会、雫石町議会、玉山村議会及び矢巾町議会と個別に懇談会を開催し、そして今回の懇談会を迎えた。
- ・ 9月中に滝沢村議会と2回目の懇談会を開催すべく、事務局レベルで日程調整をしている。
- ・ 共通課題については、きょう出席の盛岡の議員から、行政区を隣接する諸問題ということで発言いただいた内容をここに載せている。それぞれの町村ごとの境界の隣接問題ということであげたが、いわば一方的に作成したものであるため、紫波町議会さんからも、いろいろ指摘もいただきたい（各項目について説明）。
- ・ きょうの話を取りまとめ、市長部局に報告し今後の対応を協議し、紫波町議会議長さんに経過を示していきたい。
- ・ 共通課題について（別添資料のとおり）

以上の説明を受けて出された意見は次のとおり。

◎工藤・町議長 紫波町議会としての市町村合併についての現在の取り組みについて申し上げたい。

来年の7月が我々議員の任期である。前回、3年前の選挙が終わった後9月議会で特別委員会を設置し、地方分権・議員定数・費用弁償・市町村合併の4点を柱に特別委員会を設置した。その中で地方分権・議員定数・費用弁償についてはそれぞれの結論を得たわけだが、市町村合併の問題については必要に応じてなんらかの組織づくりをして問題に取り組むということで昨年の12月議会で特別委員会を解散した。議員定数の問題については来年の改選期には4名減の22名の定数にするという決定をしている。

合併の論議であるが、本年3月議会でこれをどのように取り扱いをするのかと様々検討させていただいた。その中で最初から特別委員会の設置という案もだいぶ強く出たが、結論として現在組織のある政務調査会の中でこれを勉強していくという結論を出している。私ども常任委員会が4つあり、4つ委員会が政務調査会の部会という形をとっている。したがって委員長は政務調査会の部会長という形の組織づくりをしている。したがって小さい部会の中、各常任委員会が所管する部門において部会として突っ込んだ勉強をしていこ

うというようなスタイルをとっている。

その手始めに5月に岩手県の市町村課職員を講師に迎えて講演をしているし、それぞれの部会の中では所管の問題について検討し勉強されている。8月7日には講演会を予定している。さらに行政の取り組みだが、藤原町長を先頭に12カ所で町政懇談会を開催している。住民に対する説明責任はあるのだということで合併の問題をみずから提起したり、あるいは懇談会に集まった方々の意見を聞いたり、さらには集まっていただけの方々には投書をもって合併についての意見を聞くというようなスタイルをとっている。具体的には詰めていないが、時限立法のことについて議員の方々に勉強したり検討したりと、様々である。どのような方向に進んでいくのか私にはわからないが、いずれ町民の皆さんに聞かれたりした場合、説明責任を果たしていきたいと考えている。

◎大沼・町副議長　今の段階では積極的な活動に至っていないというのが実情で、その前提として合併について町民の方々にメリット・デメリットが示されていないという前提がある。今、議長さんの方から説明があったように行政の方からも町民に説明の段階に入ったところで私どもの意見として難しい立場にあらうかと思う。

今お話あったように、地方分権に関する調査特別委員会で委員長をさせていただいており、行政に精通している先生方のお話を聞くというレベルに終始してきたというわけで、矢巾町さんも当然あるわけで、そういった矢巾町と盛岡市との関係、それからその中においての紫波町との関係というように思っている。

そういうわけで私個人として特別な意見はないわけで、よろしくお願ひしたい。

◎高橋・市会長　今正副議長さんから特別委員会のこといろいろお話をいただいたわけであるが、合併ということにこだわらないで、全体的な話については今正副議長さんから話しをいただいたので、できれば共通課題あるいは日ごろ盛岡市に対して感じていることをお聞かせいただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

◎紫波町議員　具体的にということで、日ごろ中央卸売市場にお世話になっていることから、そのことについてお話をしたい。

岩手県の台所ということで県民ひとしくお世話になっているところだが、開業以来だんだん使用料金がアップしているというようなことで、まあバブルの最盛期に建設した建物で、非常に使いやすい、温度も一定ということでもよろしいわけだが、なにしろ医食同源という言葉があるように医に対して例えば赤字でもこれはやっていかなければならないと、老人福祉にしても医療にしてもそうだが。それよりもっと前に、例えば食べ物というのが野菜を400グラム食べていれば医者いらずだよというふうなものにとって、流通過程の使用料金がだんだん使用料が上がっていくとやっていけない。そうすると、こういうふうなものはどこでどういうふうな面倒を見るのか。現実には使用料も金額も少なくなっている、市場の。それに人口も減っていく。そうした場合、どこでどういうふうな検討しながら、あるいは紫波町含めた出荷者であり消費者でもあるものは幾らかずつでも負担しなければな

らないのでは。これはわからないが。ただ、いずれにしてもこのままでは、適切な流通が円滑にいかない場面が計算していくと、打ち切りと、こういうことが見える。関係者含めてもっと話を土俵に乗せていかなければならないと思う。

なんでもいいということなので、いつも考えていたことをお話しした。資料も何も持ってきていないが、非常に食に関わる、要するに健康に関わることというふうなことで、盛岡の議員さん方も大変な問題と捉えて検討いただければと思う。

◎紫波町議員 来年は立候補しない予定なので、あまり細かいことは話さない。

岸本議員さん、あるいは阿部和平議員さんといろいろ話をしたことがあるわけだが、ひとつは合併構想というものを立てた場合に、あのころ紫波町は入っていなかったと思うが、35万人構想と聞いて、小さな構想だなという実感を持ったことがある。少なくとも県都盛岡、50万人構想位の構想を持たなければならないのではないかと思った。

それからさっきも話があったが農協合併。この中で盛岡市農協が凍結したと、凍結したということは、解ければいいということになるかもしれないが、そんな感じがしている。それから森林組合も盛岡市は合併しないと。したがって一つの構想として、そういうものも整備しながらやはり一体となってやるんだというような形が出てきてくれればありがたいなと感じている。

◎紫波町議員 副議長さんの方から盛岡に対してどのように感じているかというお話だったので、端的に言うと全国でも上から何番目位かのラスパイレス指数の高い市議会だなという第一印象である。100を超えている市議会だなと。我々は96、97位だなと思うが、そういった意味で大変うらやましいなと。それから広域行政問題懇話会だが、確かに紫波町との共通課題を探りながら、県中央部としてより有益なお互いの地域活動を深めていきたいというのはわかるが、その裏には合併問題というのが当然横たわっているということだと思う。順番が一番最後になったが、紫波町の議会としての議員達の意味はどのへんにあるのかなというのが、その目的の一つになっているのではないかと思う。そういった意味では我々紫波町の議会議員としては、合併に対しての意思の確認をしたことはない。やがては確認する時期が来るのかなと思うが、御存じのとおり藤原町長、去年あたりまでは全く合併に関しては関心がないような発言をしていた。いわゆる紫波町独自の体制づくりを進めていきたい、それはとりもなおさずサービスの低下を招かないように、具体的に言えば介護保険についても国の指導においては何か所か一緒になってやりなさいよというものだったと思うわけだが、町独自でやりましょうと。

合併についても特色のあるまちづくりを目指していきたいと。しかし、半年位前から三陸町の問題とか新聞をにぎわすようになり、議員の我々としてもあるいは、行政当局としても合併ありきということではなくて、合併の議論を避けては通れないのではないかと。たまたま先ほど議長がおっしゃっていたが、地方分権調査特別委員会というのを立ち上げ、その中にひとつの目的として合併も視野に入れていた。しかしその当時は町長の意思がそこにはないということもあるし、まだヒートアップしてきたわけではないということだ

ったので、ある程度決着を見て、合併は先の話ということで閉じている。しかしその後避けて通れないということで政務調査会を中心にいろいろ調査を進めていると。今まで何人かの講師に話を伺った。学者さんにおいてもいろんな見解があるようで、簡単に言うと人口2万人以上あるのであれば別に取りたてて合併する必要はないのではないかと、あるいは一方で四、五千人位の人口の町村がちょこちょこ固まってあるというのはいかにも効率が悪いということで、合併した方がいいという先生がいらっしゃる。先ほど昭和の大合併の話があったが、岩手県においてはその頃221の自治体があったそうだが、今現在58になっている。よその県だと大体100位あると。昭和の大合併当時にあまり合併しなかった県が全国的に見るとたくさんあると。しかし岩手県においてはある程度進んでいるのではないかと。いろんなことも勉強しながら我々も意識を高めてきているが、その中で一つ気になることが、時限立法、平成17年3月までに合併するならばそれなりの援助はしますよと国あるいは県の方で言っている。合併するならば援助する、では合併しないのは切り捨てるのかと。これは乱暴な言い方だと思う。合併する必要があるところはやればいいんであって、する必要のないところは無理にする必要はない。合併特例債というのがありますが、90%位の起債を認め、さらにその半分を地方交付税で措置をするということで、合併特例債の建設ラッシュが始まると。しかし合併当初はそれでもいいだろうが、それが肩に重くのしかかって、ますますジリ貧になっていくということも、マイナス面としてあるということも事実である。

いずれ先ほどの話に戻るが町民にアンケートをとらなければいけないということで今地区懇談会で町内12カ所、町長自ら職員とともに行って説明をしているが、アンケートをとるといっても資料を町民に説明して良い面も悪い面も理解してもらわないと、我々議員も、まして町民もわかるわけがないので、とりあえずそういった説明会をして合併の議論を深めて合併するところになりますよ、あるいはしない場合はこうですよというものを数字的なものも表してみても、それからアンケートという段階が今の紫波町の段階であろうと。しかしそれは合併ありきということではない。避けて通れない事項であるのでそうしているというのが実態であろうと思う。

まだまだ整理しきれなくてまだ申し上げたいこともあるが、最後に紫波町との共通課題という資料が配付されているが、誠に申し上げにくい盛岡市側から見た一方的な見方としか私には映らない。もう少し、紫波町の内情等を知っていただきたいという面もある。

◎紫波町議員　私はかつて一部事務組合でお世話になった。盛岡紫波環境施設組合では刈屋議員さんと、盛岡地区広域行政事務組合では小枝指議員さんと御一緒させていただいた。そういった関係もあったことからリップサービスするわけではないが、将来的に合併というのは考えていかなければならないと思う。ただ2005年までということになると、これは時間が短いのではないかと思います。

しかしながらやはり広域で考えていかなければならないというのは、例えば都市計画、そういった道路の問題とか下水道の問題というのは広域で考えていくべきだと思っている。さらに先ほど紫波町の議員からも出たが森林組合や農協などはまだ温度差があるというか

合併に至っていないということもある。そしてまた、介護保険が実施されるときにいち早く盛岡市が単独でいくということを表明したために隣の矢巾町にしても紫波町にしても単独でやらざるを得なかったということがある。そういったことを考えていけば盛岡市は本当に広域でやっていこうという思いがあるのかなという気持ちでいっぱいである。

◎紫波町議員 前任期のときに環境施設組合で吉田議員や小平議員と話をさせていただいた経緯がある。私も広域連携というものに興味があり、今まで考えてきたことがあるが、これが合併となると難しい面があるかなと思う。今の情勢の中では自分の自治体の小さなくくりよりも大きな視点で考える必要があろうかと思う。

現在経済常任委員会に所属しているが、御承知のように景気が非常に低迷して失業者がどんどん増えている状況である。紫波町は第一次産業の町だが、私の住んでいる古館地区は盛岡に通う人が多いわけだが、非常に失業者が増えてきたと思う。特に具体的にアイワの閉鎖問題、働き盛りの50代の夫婦2人ともそこに勤めていて、ともに失業したということもある。そういった雇用の面が悪くなってきたと感じている。

町の単独の中で企業誘致だとか産業の創造というのは難しいわけだが、岩手県内を見ても中でも北上市等は広域合併しながら様々な自分の資源を活用してといった企業誘致に結び付けているということを見ると、やはり盛岡広域圏、自分たちの町の中にはどういった資源があるのかということ、町のくくりを取り除いて広い視野でもう一度考えて全国にアピールしていく必要があろうと思う。そういった意味で一概に合併ということではなくて一つ一つの問題点から、こういったことは連携できるといったことを拾っていく必要があるのかなと思う。

お蔭様で今の中でも消防等では連携が図られているが、まだまだこれからまちづくり、産業の創造といった面ではみんな一緒になって考えていく必要があると感じている。私はぜひそういった意味では2005年といったような期限ではない中で、もっと広い大きな視野に立ちながらぜひこういった機会をつくって今後も継続していただきたいと感じている。

一つ具体的なことを申し上げるが、紫波高校が17年から総合学科という形になった。当町でも総合学科に対しての反対やら様々な運動も展開してきたわけであるが、いかんせん、これも岩手県の教育委員会の仕事なわけだが、一行政ではなかなかそういった形の中で物を申し上げるのは厳しい立場なわけだが、それでもいろいろな提言をしながらそういった形になったわけだが、紫波町は昔から盛岡広域圏という自負があるし、子供たちも盛岡の学校に数多く世話になっているが、学区制は昔から紫波町は別だったというようなこともあり、非常に子供たちも色々そういった面では残念なこともあったのではないかと感じている。今回総合学科で全県学区ということで県内から子供たちが集まるわけだが、ぜひ紫波町も盛岡広域圏の一行政として学区等も一緒になって考えてみた方がいいのではないかと感じているところである。現在、まだ一部に学区制限で人数制限がされるという現状がある。ひとつ具体的なお話だが、これからこういった会を長く開いていただきながら、本当に膝を交えてお話ができるような会にしていきたい。

◎紫波町議員 先ほど来皆さんのお話の中にあった、紫波町議会としてのスタンス、これについてはそのとおりである。合併ありきではなく、広域連携の中で紫波町らしさがどうあればいいのか、紫波町の住民が今と同等あるいは今以上に幸せになれる道はどうかということを考えていこうというスタンスをとっている。

桑島市長さんのスタンスで、広域の連携はもちろん必要だけれども、合併は滝沢・矢巾だよという新聞報道があった。そのことから見ても、(懇話会の皆さんではなく)盛岡市の考えはそうなんだなと思っていたところに、懇話会の皆さんからの申し入れがあったところである。私個人としては果たしてどういうお話の内容なのかなというわからない面があった。合併前提ではないということだろうとは思っているが。

それからもう一つ——これ前にもらった資料と中身変わっているのか——前は都市計画の部分に盛岡市の夜間人口をふやす都市計画づくりをするんだという項目が載っていたが、これはあくまでも盛岡市側のお話であって、紫波町との共通課題ではない。ということが盛られているとすると、果たしてどういう共通の話題が出るのかなという疑問がある。まあ、そういったことは別として私ども紫波町も盛岡市との連携の中で勉強させていただく面もあろうかと思う。

先ほど、50万人位の人口を持った方がいいんじゃないかということをおっしゃっていたが、しかし今岩手県の人口が140万人。そのうち50万人が盛岡市となったら、周辺に人がいなくなってしまう。周辺はどうなってもいいのかということである。周辺部からただ人を集めるだけの合併ではなく、やはり盛岡市自体が大きくなることを模索しなければならぬのではないかという思いもする。岩手県自体が広大な土地で人口が少なく一極集中が起こったなら、その周辺をどなたが守っていくのかということを広い意味で考えていくことだろうと、私個人的には思う。いろんなことを考えながら議長さん初め皆さんからお話あったようなことを模索しながら、議会としての考えを取りまとめるべきだと思う。

◎紫波町議員 だいふ時間も押してきたなと思うが、先ほど私自己紹介のときに申し上げたが、盛岡広域圏という中から考えると端っこわけである。私の住んでいるところから50メートルいくと稗貫郡である。そういったことではあるが、いずれ自分たちが生活していく間には広域行政というか広域的な面を持った中で生きていかなければならないのは、これは確実な将来方向だろうと思っている。

私自身、買い物等で石鳥谷にも盛岡にも花巻にも行く。盛岡行政圏内だけで動いているわけではないこと、これは皆さんも同じかと思うが、そういった中で自分の自治体をどう考えていくのかというようなことを思うわけである。

やはり行政をやっていくうえでは、その地区にあった適正な規模の自治体というのがあるんじゃないか、目の届く行政をやれる規模というのを持っているんじゃないのかなというようなことが、自分としてはだいふ疑問に思われてならない。そういったことでとらえながら、私もこれから勉強していきたいと思っているわけであるし、盛岡広域圏内の置かれている紫波町とするならば、こういった懇話会のような中でいろいろ細かな話を詰めていって、具現化するような方向になっていけば自然と私どももその中に入らざるを得

ない状況になるのではないかというような認識をもっている。

◎紫波町議員 日詰の商店街出身である。いま商店街に非常に空洞化現象が起きている。商店の皆さんの方から対策をどうするんだということを言われている。特色のあるまちづくりということで中心市街地活性化方法を、まあなかなか進まないんですがめどをつけて進んでいる状況である。そういう目先の問題があるので、はっきり申し上げて合併問題についていかにするべきかということは頭の中で整理できていない。

しかし無理な理想を申し上げていきたいと思うが、我々もこれでいいのかという疑問がある。しかし紫波町の3万4,000人の人口と矢巾町の2万6,000人の人口を合わせると6万人という人口になる。現状、グラウンドとか体育館で、矢巾町と共有していろいろ進んでいる。そういう面から、きょうは盛岡市さんの方からのお誘いで非常に申し上げにくいですが、流通センターの方は盛岡市にお願いして、矢巾の旧住民の人たちは紫波町と一緒にするのが自然体だろうと、こんな構想も頭に描いている。いずれ自然体でいくのがいいと思っている。

◎紫波町議員 私も33年ほど、今は一等地であるカワトクの隣に職場があり、農業関係の仕事をしていた。NOSA Iいわて——農業共済団体だが——NOSA Iいわての本部の方にいた関係で、この合併については当初私が入ったときには、やはり農業共済というものが70幾つあったが、現下で7つになっている。したがって合併ということについては年次年次でかなり首を突っ込んできたというか、対応したりいろいろ話をしてきた経過があり、行政というものとは全く違うものではあるが、非常に合併というものには関心はある。

ただ、今までの御意見の中でお話あったとおり、果たして早くやればいいのか、早くというか今回このような盛岡市の方と懇談する機会があるわけだが、こういった機会をもっともって持ってもう少し中身を議論していくような方法がまだ必要になってくるのかなと、そうした方がもっと意見が出てくるだろうと。もともとと言うと私合併という形で言っているような感じがあるが、今まで話しあったような内容をお話し合いができるのかなと考えている。と言うのは、先ほどNOSA Iの方で合併に携わってきた者として、急いでやる必要はないし、それぞれの行政同士の意見交換というものは必要になってくるのかなと思っている。

私も議員として1年目で、いろいろ視察等にもさせていただいているが、やはり紫波町は素晴らしい町だと思っているが、盛岡市もお世話になった中で本当に素晴らしいまちだなと思っている。したがって、いいところがそれぞれにあるわけで、そういったことをもってもお話し合いをしていきたい。たしかきょうの新聞だったか、盛岡市と都南村の合併の10周年に係る展示会が都南村で開催されていると新聞を見させていただいた。そういったものも参考にしながら、もっとお話し合いをしていきたいと考えている。

◎紫波町議員 盛岡に会社がある関係上、朝夕の交通ラッシュには本当に辟易している。最近市役所前、あの辺も渋滞するようになり、けさの新聞では盛岡市はノーマイカー

デーというのをつくっているはずだが、その日も車があるということが載っていた。こういうことが本当であれば、車だけに限らずその他のことも信用されなくなるのかなと思う。

紫波町との共通課題ということでございますが、盛岡市側からだけでなく両方から課題を出し合いながら広域行政でやれるものを見つけ出してやっていかないといけないと思う。

それをやっていく中で広域では無理なものも出てくるかなというときには、合併という話も出てくるのではないかと思います。そういう意味でこれは両方を出し合いながらこういう会をつくっていただければと思う。

◎紫波町議員 衛生処理組合でお世話になっている議員さんもいらっしゃるが、私は福祉環境常任委員会の委員の立場から話させていただく。

町内の介護老人施設の入所待機の方々が50名から今や100名を超えている状態である。そして盛岡市のあけぼの荘にもお世話になっているが、今後高齢社会にどんどんなっていくわけだが、そういうことを考えた場合には広域的な立場で具体的に取り組んでいかなければならない時代が来るのではないかと、今その一歩を踏み出しているのではないかと捉えている。

また少子化問題だが、我が町からも列車で盛岡市または花巻市にお勤めになっている方がたくさんいる。そういう中でどうやったら女性の人たちが子育てをしながら勤めることができるか。また若年離婚者もたくさんいるが、私どもは幼児虐待が盛岡市の都市部のことととらえていたが、今や町内でもそういう声をお聞きするときがある。それは地域とか年齢ということではなく着実にそういうものが身近なところで起こっていると、そういうことから本当に盛岡市の皆様と、こういうことでもしっかり話し合いというかそういう機会があればいいなというふうに思っている。しかし我が町の3万4,000人の人口でいくと、今の時点では私どものほうでは長寿健康課というが、元気はつらつ推進とかいろんな対策を行っていくときに、人が見える対策が取られているように思う。

そうした場合に、合併になった場合にこれが人が見える対策を行っていくには果たしてどのようになるのかと、そういう不安を少し感じている。

ちょっと言いにくいことだが、私は農家だが、私の親戚が盛岡市にたくさんおり、その中に盛岡市の農協職員もいるが、例えばBSEの問題に関して盛岡市長それから矢巾町長そろったときに、やはり一つの農業対策について少し温度差を——助成とか関心度といった面で——感じるがあった。そういう点でちょっとこの辺が産業関係のところに農協の合併を取り上げているが、ちょっとその辺が疑問というか私自身が抱えている、前に進めない面がある。

いずれこのような話し合いの機会を今後持っていただければ幸いである。

◎高橋・市会長 ありがとうございます。全議員さん方から、日ごろ思われていることあるいは具体的に合併というふうなことについての所見、それから冒頭、正副議長さんからは特別委員会の経過等につきましてもお話をいただいた。

それで確かに共通課題については既に私どもの方で1年前にでき上がって、これについ

で冒頭申し上げたとおり、本当に私どもの立場からの共通課題であるのでこれについては当然紫波町さんの方からもいろいろ御提言をいただきながら、ともに具体的な御提言をいただければ、これについて話し合いをしていく機会があればいいのかなという感じている。

それから約1年ほど前にできた資料であるので、年度が変わってから予定というのがもう既に実現されたものもあったことから、例えば観光関係ではこの湯遊街道というパンフレット、これも既に予算の中でつくっており、自己の問題については経過もあったので修正をさせていただいているが、基本的なところでは前回皆様方に配付した中身と同じであるので御理解をいただきたい。

それでは今いろいろ御発言をいただいた内容に関して盛岡の議員の方で御発言がある方は。

◎盛岡市議員 紫波町の議員の方々は勉強しているし、本当に真剣に紫波町の発展のための考えをお持ちの方々ばかりだなと思う。

お話を聞いて、その中においては介護保険制度の単独事業だが、そのいきさつが盛岡市が単独でやったから、矢巾町も紫波町も単独でというお話があったが、やはり広域的な考え方、また盛岡市が合併という大前提を持っていた場合には神経を張り巡らせて対応していくべきだったなという反省をしている。

◎高橋・市会長 きょうは6人の部長も来ているので、それぞれの所管のところでの今段階で説明できるようなことがあったらお願いしたい。

◎企画部長 具体的な部分、抽象的な部分、いろいろお話をちょうだいをいたしている。企画の関係では大きくは合併関係ということだが、きょう初めてお会いしてお話を伺ったところで、合併云々とお話をするのは本意ではない。ただ合併というのは、合併も一つの選択肢であるし、それ以外にも広域連合とか既に行っている一部事務組合とかそれぞれ利点・欠点は当然ある。それらについては御意見をちょうだいしながら、お話し合いをしながらどれが一番いいものかと考えるものかなと。合併については盛岡では合併の方向で市長が動いているわけだが、それぞれ十二分な意見交換がなければできないものであろうと思っている。

ただ盛岡市としては合併関係については三者ということで資料等については住民の方にリーフレットを配布しているし、広報紙では8月1日号で特集で2ページでやっている。できるだけ市民に情報を出そうということで動いている。ただ全ての情報が出ているわけではないので、なかなかどういう情報を出すのがいいのかという問題点もある。今はそういう形で動いている。

交通ラッシュの関係だが、たしかに市内は交通ラッシュがいろいろある。盛岡市としてはオムニバスタウンということで今度は都南地区、一部は矢巾町役場までバスを乗り入れさせていただき、そういう形でことしの秋からできるだけバスの便をよくということで地元の方々と協議をしている。

きょう企画部としては以上ということでお願いしたい。

◎産業部長 市場について発言があったが、実は市場そのものの大変大きな問題を全国的に抱えており、うちの市場も新しくできたからといって、うまくいっている状態ではない。したがってこれから話し合いが本当に重要な段階にきている。これから積極的に協会の皆さんの話を聞きながら市場の改善策を図っていかないといけない時期にきている。

農協の合併については実は中央農協とうちの盛岡市農協と取り決めがある。その中で三つほど取り決めをしているが、なかなか達成できないで苦労しているということがあり、盛岡市としても市長は一生懸命、なんとかしろということで話をしているが、市としても特に預金高を確保する必要があったり、補助金制度でバックアップしたりできる範囲でかなりバックアップしているところであり、農協さんの方では今3ヵ年計画をつくっており、今取り組んでいるところである。

◎建設部長 建設部の方では、道路の整備とかその前提となる計画を担当しているわけだが、先ほど盛岡市周辺でも交通ラッシュが激しいというようなお話があったが、その元凶とは申し上げられないが、主たる行き先がもし盛岡であればという前提で、これは盛岡広域都市計画の中で検討はされているが、道路網、特に都市計画の道路網については現在の市内、特に中心部を中心とした昭和13年に決定した都市計画道路の見直しを行っているというような状況である。

主に2環状で盛岡市の方では対応するということになっており、市街地環状と都心環状という2つの環状を前提にして市の中に入ってくるということになるわけだが、そのうちの都心環状である。ここに共通課題にある国道396号の盛岡市の行き先というのが盛岡駅南大橋線というところにこの道路が入ってくるわけで、396の4車もさることながら入ってきた行き先が2車ということになると、もっともっと混雑が助長されるということになるので、それは駅前の方からも整備を進めているが、来年度からは南大橋側の方からも整備を進めるというようなことで計画しており、いろいろお世話になるがよろしく願いたい。

◎産業部長 先ほど申し上げるのを忘れたが、今回2回目ということで、前回懇談会の中でうちの副議長から話をしてもらったが、観光面で提言があり、ことし、みちのく湯遊ガイドというパンフレットをつくらせていただいた。

◎水道部長 水道問題について今回特別な話はなかったわけだが、県の方の水道施設整備基本構想として、今まで県内の水道圏を8ブロックに区分してきている。これが平成14年3月に改定され県内が3つのブロックに統合再編となった。この目的は市町村間の水の需給バランスを取るための県の考えということになっている。今まで紫波町さんは中部広域水道圏に属していたが、今度同じ北上川流域広域水道圏となる。

水道問題に関しては今後いろいろと検討することが出てくるのではないかなと思っている。

◎教育部長 歴史とか文化の活用ということで、教育委員会ではこういった方面の仕事もしている。観光というと市で言うと産業部で担当しているが、観光のための生かす素材が歴史的なもの、文化的なものがあるだろうと考えている。そういった意味では歴史の掘り起こしをするというか価値を発掘するというか、こういった必要があるのではないかなと思っている。そういった資料・データ等を教育委員会としては提供していけるのかなと考えている。

ある時代というか事実に基づきネットワーク等を広域的に立ちあげていくことも可能かなと考えており、あるテーマに基きながら共通項目というか時代背景を反映したようなものの研究を共通的にやりながら、書物に残したりあるいはそういうものをもとに史跡めぐりの観光コース等に設定できるような資料を提供していくと。さらには博物館とか資料館を結び付けながら広域的にやっていく必要があるのかなと。そういう可能性は大いにあるのかなと感じている。

先日も担当者と話をしたが、意外と文化関係の職員の交流というものが無いというか、ちょっと残念に思っていたが、各市町村の仕事でてんやわんやということもあるようで、横の連携を密にしながらこういう研究会等をつくって観光面に反映していけるのかなと感じている。

ここのデータに載っているが、都南歴史民族資料館で学習会を開いているが昨年度も高水寺の城山公園の見学等、春と秋の2回、同じコースで実施しているし、ことしも大迫町中心に徳丹城から高水寺、それから大迫の山岳博物館とか早池峰山の方の神社、これを春と秋に計画すると。非常に好評で、バス1台でやっているが、抽選で漏れる人もいたりして2回実施しているということで、こういうことは非常に大事なことだなと考えている。

◎高橋・市会長 教育部長、紫波高校の総合学科ができて全県学区、1学区になってくるといことで、盛岡とのいわゆる学区についてのますますの連携をという話について。

◎教育部長 県の方で8学区にたしか改編するということいろいろ今検討しているようで、盛岡市の市立高校の方も実は教育改革とか高校改革ということを考え始めており、市民の方々に入っただいてやっている。

子供たちにとしてみると、自分の住んでいるエリアだけじゃなくて、行きたい学校の選択肢が広がるというのはまた一つのいいことかなと考えている。したがって紫波高校の方にも市内の子供たちが、全県学区になりますと進学する子供が出てくるのかなと思っている。

◎高橋・市会長 ほかに発言は。

◎紫波町議員 さきほど、学区についての話が出たが、私の子供はもう高校を卒業してしまっただが、まだこれから高校に入らなければならない子供さんを抱えている議員もいるので、言いくかろうと思ってあえて私から申し上げるが、いわゆる紫波町と大迫町は学区内という高校がつい最近まで紫波高校と大迫高校しかなかった。盛岡市の方々かどの程

以外はみんな学区外である。で、学区外というのは例えば1学年が300人だとすると、15%しか学区外を取らない。それがやがて10%になるということをきいている。しかもその学区外というのは300点満点において大体20点から30点市内の方々より多く取らないと合格できない。

私の姉夫婦が盛岡市内にいる。兄も昔は紫波町から盛岡の高校に通い、私も紫波町からは花巻の方に通った。それが当然学区外の者としてそこは超えていかなければならないものだという気持ちでいたから、別にどうとも感じなかったが、いざ実際自分の子供ができてみるとやはり市内の子供に比べてかなり不利だと。何とかしたい気持ちになるのは親として当然の話で、兄夫婦に話してみると、兄はわかるんだが兄の女房というのがなかなか話がわからない。

紫波町から大迫町からたくさん来られたんでは、盛岡市内の中学生が高校に入学しにくくなるからそんなの認められないという。でも、言うなれば経済圏も、国政においては選挙区も紫波町と盛岡は一体。広域連携という意味においても。花巻ということになると選挙区も違うし、ちょっとあれだが。だからそのへんを全県1区なり全県8区なり、やはりこれは県教委の方をお願いしなければならないんだと思うが、盛岡市の議員さん方にも、お願いになるか。そういう意味では非常に不公平と思っているので、ひとつそういった話が出た際にはよろしくお願い申し上げたい。

◎紫波町議員 水道部長にお尋ねしたい。紫波町では築川ダムが盛岡で計画されたときに、なんとかしてそこに水利権を確保できないかということで議会内でも大変議論したことがある。私どもも好んで中部広域から水ももらっているわけではなく、やはり県の指導なり、いろんな経過があり現在に至っている。

それが今度北上川流域広域水道になると、線を引いて夏油のむこうから引っ張っている送水管を切ってしまうことになるのか。ただ線を引いたから今度はこっちだよという問題ではないような気がする。今まで中部広域水道に投資した額もかなりな額である。それから築川ダムに水利権を求めたときにも、吉田久孝さんとかいろんな方々とお話したことがあるが、紫波町は入ってないよと。でも紫波町の山屋地区というのは築川ダムの水源地である。それが認められないで、金を出して花巻の豊沢川土地改良区が水利権を持っている。これはどう考えても納得できない。ということで大変議論した経過がある。そういう問題も抱えているということで、発言させていただいた。

◎水道部長 今使用している水はそのままお使いいただくということになる。

先ほど話した岩手県の構想というのは、今まで8ブロックに分けていたのを3つのブロックにした。これは大きい意味での融通のきく方向に転換したということで、今、中部さんからいただいている水についてはそのままお使いになっていただくこととなる。線を引いたから今すぐ変わるということではなく、今後例えば紫波町さんの人口が増えてきた場合には融通がききやすくなるというふうに理解していただければよろしいのではないかなと思っています。

◎高橋・市会長 大変活発に議論いただき、時間も5分ほどオーバーしているので、このへんでまとめさせていただきたいと思うが、今出されました意見について、他の町村議会さんからの場合もそうだが、会としてまとめさせていただき、うちの議長名で市長の方に要望してまいりたい。

それで早急に市長の方から、結果・経過につきまして報告をいただき、また私どもの議長の名前で工藤議長さんの方に回答申し上げるという形にしたいと思うが、それでよろしいか。(異議なし)

次回以降の件だが、来年は私どもも統一地方選挙で改選があるし、紫波町さん・矢巾町さんも来年改選ということであるので、できれば秋に滝沢さんと2回目以降あるわけで、そういう経過等も踏まえながら次回のことについては正副議長のところで調整させていただいて、いろいろ日程を設定させていただきたいと思うがよろしいか。(異議なし)

では協議については以上とさせていただきます。

◎立花局長 それではこれをもちまして盛岡市議会・紫波町議会懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。

盛岡市議会・紫波町議会懇談会の意見等 (平成14年8月1日開催)

【総括的關係】

項 目	共通課題	意 見 等	備 考
1 共通課題	(1) 施策の実施	・紫波町の人口規模であれば、人の顔が見える施策がいろいろと行われているが、合併になっても同様に行っていくのか不安を感じている。	
	(1) 広域行政に取り組む姿勢	・例えば介護保険なども盛岡市が単独で進めるということを表明したことにより、矢巾町、紫波町も単独にせざるを得なかったことなど盛岡市が広域的に取り組んでいると思えないこともある。	

【企画關係】

項 目	共通課題	意 見 等	備 考
1 交通政策	(1) ノーマイカーデーの実施状況	・新聞報道で盛岡市職員のノーマイカーデーでも他の日と同様に職員駐車場に車があるというが、本当であれば盛岡市の信用にも関わるのではないか。	

【保健福祉關係】

項 目	共通課題	意 見 等	備 考
1 介護保険	(1) 介護保険に係る施設入所待機者への対応	・紫波町の入所待機者は50人から100人程度いる。広域的な立場で具体的に取組まなくてはならないのでは。	

【産業関係】

項目	共通課題	意見等	備考
1 中央卸売市場	(1) 使用料について	<ul style="list-style-type: none"> ・使用料金がアップされているが、だんだん引き上げられれば、流通過程の利用者はやっていけない。どうにか面倒を見る必要があるのでは。 → 全国的に市場そのものに問題を抱えており、話し合いが本当に重要な段階にきている。積極的に協会の皆さんの話を聞きながら市場の改善策を図る時期にきている。 	
2 農林業	(1) 農協の合併及び森林組合の合併	<ul style="list-style-type: none"> ・農協合併、森林組合合併などが構想として、整備しながら一体となってやっている形があればいい。 → 農協の合併については、市もできる限りのバックアップをしている。農協でも取り決めたことを達成するため取り組んでいる。 	
3 産業振興	(1) 産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡広域圏として広い視野で企業誘致とか産業の創造という連携を。 	

【教育関係】

項目	共通課題	意見等	備考
1 高校の学区	(1) 学区の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委にお願いしなければならないと思うが、紫波町も盛岡広域の一行政として学区拡大等も一緒に考えてほしい。 	

【水道関係】

項 目	共通課題	意 見 等	備 考
1 上水道	(1) 盛岡広域 の水道につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・ (県の構想で) 紫波町が北上川流域広域水道圏になると、これまでの中部広域水道圏とのつながりはどうなるのか。 	